

平成31年3月9日

足立区立竹の塚小学校
学校長 小林 浩二殿

足立区立竹の塚小学校
開かれた学校づくり協議会

平成30年度 学校関係者評価書

【1 自己評価全般について】

◇◇ 学力向上について ◇◇

◇基礎的・基本的な学力の向上として、「学力向上アクションプラン」評価シートを用いて児童への指導に取組まれた。パワーアップタイム、竹小タイム、放課後学習、そだち指導員による個別学習、東京ベーシックドリルやミニテスト等の活用・実施など学力定着、向上を目指している。残念ながら国語・算数とも学力調査目標通過率が低下した。特に国語は言語領域に課題があるとの結果が出ている。課題にあった新たな取組みや見直しをし、引き続き児童の学習意識の向上、理解の向上を図り指導していただきたい。

◇小中連携では中学校1校と小学校3校での連携を年7回実施された。小学校3校では授業参観を実施し、互いの授業を参観することは自校での授業の参考・研修になり良い取組みだと思う。また、中学校との連携では小学6年生に対し中学体験授業が実施された。児童が抱えている中学校生活への不安を和らげ、新しい環境での生活をイメージさせる良い体験だったと思う。児童の体験や教員の各校との連携をもとに児童への学力向上や多方面への指導に生かしていただきたい。

◇教員の授業力向上については、足立スタンダードに基づく授業参観を全教員年3回実施している。他、若手教員を対象に月2回程度の研修会や特別な教科道徳・外国語等の指導に関わる研修会が実施されている。新学習指導要領改訂等で新たな指導分野・内容が含まれていると思うが、児童のため全教員が連携して継続的に取り組んでいただきたい。

◇◇ 思いやりの心の育成と体力の向上 ◇◇

◇「竹小きそあじ」は長年の取組みによって児童だけにとどまらず保護者にも定着・浸透し素晴らしく思う。次年度からは“家庭学習”と“身だしなみ”が追加されるとのこと。「竹小きそあじ」の質の向上に“身だしなみ”等が含まれるのだろうが、どのように指導し定着・浸透していくか期待したい。

◇自己肯定感については、スクールカウンセラー中心に担任を含め年2回全学級で授業実施、たてわり班活動等の異学年交流、いじめ対策防止委員会による児童の状況把握、特別支援教室の教員が担任と連携した児童への指導等、多岐にわたる指導・活動が実施されてきた。今後も児童が自分の良さを実感する活動、気づく指導に期待したい。

◇体力の向上では「マッスルタイム」で投げる運動を中心に取組んだ。PTA ソフトボール部の協力もあり良い結果が得られた。児童の投力向上のみならず学校と保護者の良い繋がりが見られた。他機関の指導もあり、今後も投力をはじめ児童の体力向上・健康に努めていきたい。

◇◇ 特色ある教育活動の実施 ◇◇

◇言語能力向上の取組みの充実として、全学年で弁論大会に向け作文・スピーチ指導が継続的に実施されてきた。弁論大会は竹小独自の自慢できる素晴らしい取組みだと思う。弁論大会は続けていきたいが、教員への負担が気になる。良いものにする指導も大切だが、児童の個性や児童そのものの言葉・文章での弁論を聞いてみたい。読書活動では高学年の読書離れが気になる。「読む力」は全教科に必要な力なので、取組みの見直しや新たな活動に期待したい。

◇体験的授業では各学年年3回以上の実施が成された。茶道・落語・折り紙など日本文化に関するものやシッティングバレーやブラインドサッカーなどオリンピック・パラリンピック教育に関するものなど児童にとっては貴重な体験となった。来年開催される東京オリンピック・パラリンピックやその後の社会で多種多様な文化や価値観に触れていく。自国の文化を知り、互いの価値観を理解し尊重できる広い視野を持ち心豊かな児童の育成をお願いしたい。

◇地域主催の各コンクールや地域の行事などへの参加、PTA 各行事、おやじの会各行事への参加は互いが繋がり交流が広がり地域を知ることになる。各行事への参加の継続を希望する。

【2 学校活動全般について】

竹の塚小学校は「みんなの竹の塚小学校」をスローガンとして学力向上と心の教育を両輪に「居心地のよい学校」づくりに取組んできた。学力向上の基盤として互いを認め合い・尊重できる人間関係の構築に向け「居心地のよい場所＝学校」を目標に全教員が児童に向き合い取組んでいる。昨今の子どもに関する哀しいニュースを耳にするたび家庭・学校・地域の繋がりが大切ではと考える。児童の教育・育成のため学校・家庭・地域はより一層の協力・支援が大切と思われる。